

# R5 年度長崎版地域包括ケアシステム推進における地域意見交換会実施報告書⑤

共催：長崎市医師会・長崎市

- 目的** ①医療・介護の専門職における長崎版地域包括ケアシステムの理解促進  
②顔の見える関係づくり・多職種連携強化

**対象者** 医療・介護等専門職のうち多職種チーム化に登録いただいている方  
(医師・歯科医師・薬剤師・訪問看護師・栄養士・地域包括支援センター・在宅支援リハビリセンター・包括ケアまちなかラウンジ・市職員)

## 開催日時等

日時	会場	対象地域包括支援センターエリア
⑦ R5 年 6 月 29 日(木)19:00～20:30	平和会館ホール	江平・山里/西浦上・三川

## 内容

### 1. 開会挨拶

### 2. 講話

- |                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| (1)元気なうちから手帳について      | 長崎市福祉部次長 渋谷 浩司   |
| (2)長崎市医師会版 わたしの思いについて | 長崎市医師会 理事 土屋 知洋  |
| (3)ACP について～救急医の立場から  | 長崎市医師会 理事 早川 航一  |
| (4)救急現場における DNAR 対応   | 北消防署警防 1 課 城戸 貴幸 |

### 3. 意見交換会

テーマ 「ACP について自身の立場でどのようなことに取り組んでいるのか」  
～工夫していること・難しいと感じること・悩み・事例など～



## 参加者数

(人)

	R5 年 6 月 29 日 平和会館ホール
医師	7
歯科医師	2
薬剤師	14
訪問看護師	2
管理栄養士	1
主任ケアマネジャー	12
在宅支援リハビリセンター	12
包括ケアまちなかラウンジ	2
地域包括支援センター	4
その他	1
医師会事務局	2
行政	10
計	69

※その他・・・理学療法士 1 名(訪問看護ステーション)

## 意見交換でのご意見(一部抜粋)

テーマ 「ACPについて自身の立場でどのようなことに取り組んでいるのか」

～工夫していること・難しいと感じること・悩み・事例など～

### ACPについて

- ・元気なときに ACP を切り出すのは難しい、信頼関係がないと ACP の話をしにくい
- ・家族としっかり話しをするようにしている(訪問看護師)
- ・時間もかかるし、気持ちの変化もあるが、ACP は必要性があると思う(医師)
- ・ご本人の希望や家族と話しながら食事提供を進めるようにしている(栄養士)
- ・なるべく判断がつくうちに考えるのが良いのでは。
- ・“何があったら頑張れる？” ポジティブな側面を捉える
- ・最期に苦しむ姿を見て入院となるケースもある。認知症進行の前に ACP 必要だと思っている(医師)
- ・末期の方の場合、家族の意見を重視する結果になることが多い(ケアマネジャー)
- ・救急の現場で「何故、蘇生をしたのか」と家族から言われたことがある(医師)
- ・退院をきっかけにACPに触れるのはどうか
- ・介護保険を皮切りに「一般論として考えてみませんか」ということを話している(ケアマネジャー)
- ・リーフレットを薬局に置いている(薬剤師)
- ・言葉を選びながら、イメージをしてもらえようとお伝えしている(ケアマネジャー)

### 元気なうちから手帳について

- ・なるほど介護保険の冊子と一緒に手帳を渡してはどうか
- ・手帳を気軽に手に取ることができるようにした方が良い
- ・もしかしたら“全部書かなければ”と思う方も多いのでは。
- ・他市では、チェック式で高齢の方には書きやすい。
- ・手帳に記入しようと思ったが難しい。考えがまとまらない。
- ・自分の親に持って行ったことがあるが、怒らせてしまった。内容が重い。
- ・口頭では自分の意思を言うが、書くまでは…と後ろ向きな方が多い。
- ・「家族に話したくない」、「恥ずかしい」と言う方もいる。部分的にだけでも書いていけばいいのでは。



### 情報共有について

- ・最期まで関わることはあまりないが、お話を聞いてケアマネジャーに情報提供をしている(薬剤師)
- ・一人ではなく、チーム(多職種・家族)で分け合って支援するのがいいのでは。
- ・話し合いをするなかで、チームのみんなが共通認識を持って支援していくことが大切。
- ・リハビリの場で、看護師に言っていないことを教えてくれることもある。関係者間で情報共有している(理学療法士)
- ・遠隔地の関係者が閲覧できるシステムがあると良い

<意見交換の様子>

